平成23年度（2011年度）セタシジミ産卵前肥満度

石﨑 大介・幡野 真隆

１．目　的

産卵期直前のセタシジミの肥満度（軟体部乾燥重量／全重量×100）は産卵量の指標であると考えられており、資源変動の重要な要素となっている可能性がある。そこで琵琶湖北湖一円の漁場においてセタシジミの肥満度を調査した。

２．方　法

2011年6月1日と3日に琵琶湖北湖のセタシジミ主要7漁場（沖島南西・沖島東・沖島西・松原・磯・長浜・今西）を含む10漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる貝桁網を用いて調査した。調査は毎年同じ漁業者に依頼している。漁場ごとに殻長18 ㎜以上の個体を無作為に 12 個体抽出し（採捕数が12未満の水域は全個体）、全重量を0.1 mgの単位まで測定した後、解剖して軟体部をステンレスカップ内に移し、100℃で24時間乾燥させた後、デシケータ内で冷却し、乾燥重量を0.1 mgの単位まで測定し、肥満度を計算した。

３．結　果

全漁場の肥満度の平均は 2.72%であり昨年度の3.84%に比べて大きく低下した（表1）。琵琶湖の西部や北部で低く、東岸で高い傾向は例年と同様であった。主要漁場の平均肥満度も2.91%で昨年度から大きく低下した（図1）。各漁場の肥満度の推移を見ても全ての漁場で低下し、特に沖島西漁場の低下が著しい。全ての漁場で肥満度が低下していることから、琵琶湖全体に起きた環境の変化等が原因と考えられる。今後は肥満度の変動に影響を及ぼす要因の解明が必要であるとともに、資源状況の変化に注意が必要である。

表1　各漁場の肥満度

漁場名	肥満度(%)
沖島南西	2.81
沖島東	2.53
沖島西	2.53
松原	3.53
磯	3.22
長浜	3.25
今西	2.55
石寺	2.67
針江	2.12
高島	1.94
平均	2.72

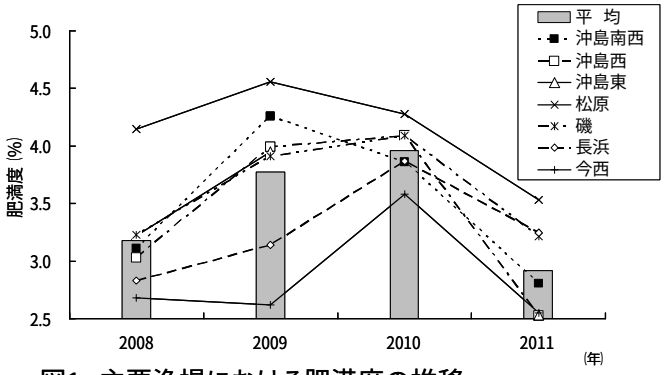

図1. 主要漁場における肥満度の推移

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の中で行われた成果の一部である。